

地域との「懸け橋」に

このたび、病院広報誌「懸け橋」を創刊することとなり、ひとことご挨拶を申し上げます。

当院は昭和 63 年 1 月に「三聖病院」として創立され、平成 11 年 3 月に「医療法人社団三聖会」を設立し、現在に至っております。

当院は、内科・泌尿器科・整形外科・リハビリテーション科を標榜し、地域医療に微力ながら貢献してまいりました。

これまでのホームページによる情報発信に併せ、広報誌を発行することにより、当院を利用されている患者さんやご家族をはじめ、地域医療に携わる皆さんに、当院についてよく理解していただき、身近に感じていただければ幸甚に存じます。

今後は、内容の充実に努め、病院の紹介のほか、皆さんのお役に立つ情報発信を行い、地域医療に貢献してまいりたいと思います。今後とも、ご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。



院長
日並 史成

外来担当医表

	月	火	水	木	金	土	
内科	AM	塚野	日並	日笠	塚野	日並	第1・3・5 伊藤 第2・4 塚野
	PM	日並	塚野	日並	伊藤	伊藤	
泌尿器科	AM	佐和田	岡本	佐和田	岡本		第1・3 岡本 第2・4・5 佐和田
	PM	岡本	岡本	佐和田	岡本	佐和田	
整形外科	AM	奥田	池田	池田	非常勤医	石本	第1・2 非常勤医 第4・5 堀内 第3 大島

受付時間 AM 8:45 ~ 12:30
PM 14:45 ~ 17:30

診療時間 AM 9:00 ~ 13:00
PM 15:00 ~ 18:00

予約制ではありませんので、
随時受付となります。



関連施設のご案内

健診センター



0120-48-1739

- 全国健康保険協会（協会けんぽ）生活習慣病検診
- 労働安全衛生法の健康診断
- 健康保険組合による指定の生活習慣病検診
- 人間ドック（半日、1日）
- 特定健康診査（メタボ健診）
- 特定保健指導

介護事業（在宅支援）



TEL.078-230-7767

- 訪問看護ステーション サンケア
- ケアプランセンター サンケア

サービス付き高齢者住宅 / デイサービス



TEL.078-242-8000

- サンケアホーム 神戸三宮
- デイサービス サンケア

懸け橋



広報誌「懸け橋」の 創刊にあたって



理事長

岡本 恭行

三聖病院は、昭和 63 年に神戸三ノ宮に創設された急性期病床 48 床と療養病床 42 床の病院です。

今年で創立 30 年を迎えました。

さて、2025 年に向け、地域包括ケアシステムの構築が進む中、地域医療における病床機能の再編が進んでおり、これからは、それぞれの医療機関はその医療機能を明確にしていかなければなりません。

一方、高齢化社会においては、高齢者世帯・単身高齢者世帯が増加し、生活習慣病や転倒骨折、誤嚥性肺炎、認知症などの患者さんが増え続けることが懸念されます。こうした中、これからの医療は、それぞれの患者さんに沿った全人的医療を心がける必要が大切であると考えます。

私たちは、患者さんを中心に、ご家族やかかりつけ医の先生としっかり連携しながら、温かい医療・看護・リハビリを提供し、患者さんが住み慣れた自宅でご家族と共に暮らせるようにお役に立てる病院でありたいと思います。

地域の皆さん、また、地域医療を担われる皆さんに、当院の取り組みなどについてご理解いただき、皆さんとのコミュニケーションツールとすべく広報誌「懸け橋」を創刊いたします。お手すきの際に見ていただければと思います。

消化器内科

消化管は、口から肛門まで連続する一本の管状、袋状の形態を有する臓器で、長さはおおよそ9m、人の身長 の5倍から6倍になります。食べ物はこの管をおよそ一日かけて通り抜け、糞便として排泄されます。

消化管は食物を消化、運搬し、排泄する働きを持つため、腫瘍や潰瘍、炎症などの器質的な病気や、便秘や逆流性食道炎などの消化管運動不全に伴う機能的な病気も多いのが特徴です。そのため食道や胃、腸などの消化管には、さまざまな不快な症状が起こることがあります。胃の痛み、胸の痛み、胸やけ、呑酸（どんさん）、げっぷ、のどのつかえ、のどの違和感、胃のもたれ、膨満感、食欲不振、おう吐、腹痛、便秘、下痢、吐血、下血など、実にさまざまな症状があります。

特に、上腹部には胃、十二指腸、胆のう、すい臓、肝臓など、さまざまな臓器が集まっていて、痛みが出る場所と、病気を起こしている臓器には深い関係があります。また、このような症状は消化器以外の臓器が原因となって起こることもあり、症状だけでは病気を正確に突き止めることは不可能で、内視鏡検査、超音波検査、CT 検査などの様々な検査を含めて総合的に判断する必要があります。

当院においては、胃カメラ、大腸カメラ・腹部エコー、胃透視、小腸透視、注腸造影などの精査を行っています。気になる症状がある場合は自己判断で経過観察せず、まずはご相談下さい。

ただ単に「病気」を診るだけではなく、患者さんの個性や人間性を受け入れ、患者さんひとりひとりに寄り添った医療と、患者さんや家族の方が気軽に何でも相談できる「まちのお医者さん」を目指しています。

消化器内科部長 塚野 豊彦

下部尿路機能障害を有する 患者さんに対する排尿ケアチームを 立ち上げました。

下部尿路とは、膀胱から尿道までを指し、下部尿路機能とは蓄尿と排尿の 2 つの機能に分けられます。つまり、下部尿路機能障害とは尿失禁や尿閉などの症状を言います。

排尿ケアチームは、排尿管理の知識を持った医師、看護師、理学療法士などの多職種で構成されるチームです。

このチームは、入院中の患者さんであって、尿道留置カテーテル抜去後に尿失禁や尿閉などの下部尿路機能障害等の症状を有する患者さんや尿道カテーテル留置中であって、尿道カテーテル抜去後に下部尿路機能障害の恐れのある患者さんに対して、排尿自立支援を行っています。

目的は、尿道留置カテーテルを一日でも早く抜去することにより、尿路感染を防止するとともに排尿自立へ導くことにあります。その結果として、人としての尊厳が守られることのみならず、ADL の維持・増進、さらには早期退院や寝たきり患者さんの減少にもつながります。

患者さんの下部尿路機能障害を評価し、排尿自立に向けた包括的排尿ケア（排尿誘導・生活指導・排尿に関する動作訓練・薬物療法など）の計画を立案し、実施・評価します。

患者さんが、自宅に戻り、快適な生活を送ることが出来るように排尿自立のための支援を行っています。

泌尿器科部長 佐和田 浩二